

1.麻疹

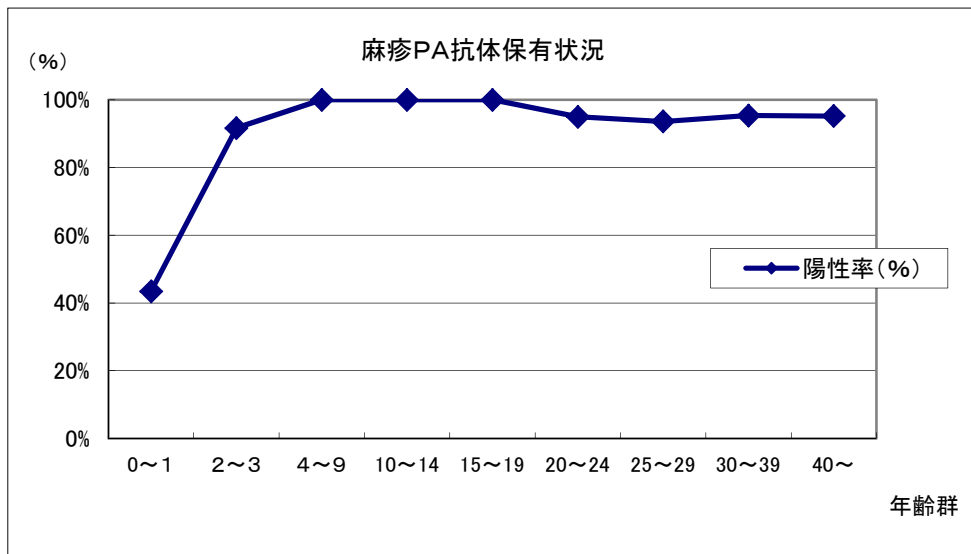
1)検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～	合計
検体数	23	24	35	39	31	40	94	86	84	456

麻疹は合計456検体についてゼラチン粒子凝集 (particle agglutination: PA)にて麻疹PA抗体価を測定した。

2)麻疹PA抗体保有状況 (%:PA価16倍以上陽性)

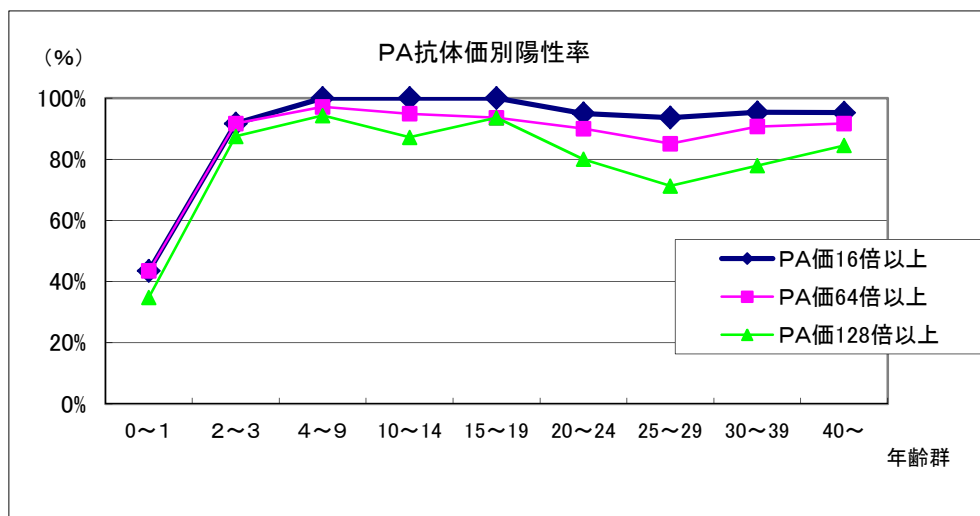
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
陽性率 (%)	43.5%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	93.6%	95.3%	95.2%



麻疹抗体保有状況は、4～19歳の年齢群で100%であった。20歳以上の年齢群では、25～29歳の年齢群で陽性率が95%を若干下回ったが、全年齢群が高い保有率を維持していた。2～3歳の年齢群では昨年度より低下した(昨年度は100.0%)。

3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
PA価16倍以上	43.5%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	93.6%	95.3%	95.2%
PA価64倍以上	43.5%	91.7%	97.1%	94.9%	93.5%	90.0%	85.1%	90.7%	91.7%
PA価128倍以上	34.8%	87.5%	94.3%	87.2%	93.5%	80.0%	71.3%	77.9%	84.5%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。平成25年度は2～19歳までの年齢群で他の年齢群より抗体価が高い傾向があり、特に4～9歳および15～19歳の年齢群ではPA価128倍以上が90%を超えていた。20～39歳の年齢群ではPA価128倍以上の割合が0～1歳の年齢群を除く全ての年齢群より低く、昨年度と比べ低下していた(昨年度は20～24歳で84.0%、25～29歳で86.9%、30～39歳で83.5%)。

2.風疹

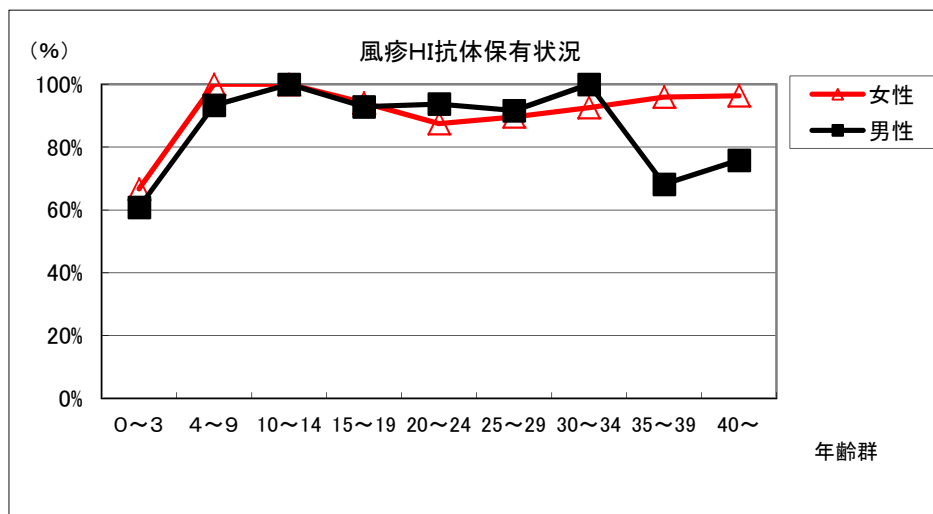
1)検体数

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～	合計
女性	24	20	18	17	24	58	27	25	55	268
男性	23	15	21	14	16	36	12	22	29	188
合計	47	35	39	31	40	94	39	47	84	456

風疹は合計456検体について風疹HI抗体価を測定した。

2)風疹HI抗体保有状況(%:HI価8倍以上陽性)

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～
女性	66.7%	100.0%	100.0%	94.1%	87.5%	89.7%	92.6%	96.0%	96.4%
男性	60.9%	93.3%	100.0%	92.9%	93.8%	91.7%	100.0%	68.2%	75.9%



風疹抗体保有率は、男女ともに4～19歳の年齢群で90%以上を示した。女性は20～29歳の年齢群で0～3歳の年齢群を除く全ての年齢群に比べ低く90%を下回った。前回調査を行った平成23年度の結果では、女性は20歳以上の全ての年齢群で90%以上を示しており、今年度は20～29歳の年齢群で低下がみられた。男性は35歳以上の年齢群で0～3歳の年齢群を除く全ての年齢群に比べ低く80%を下回った。男性は前回、35～39歳で87.5%、40歳以上で98.1%であり今年度は35歳以上の年齢群で低下がみられた。